

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ) 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	(株)コムスン ほほえみ千歳	評価実施年月日	2007年 6月 1日
評価実施構成員氏名	新川・羽田・小笠原・牧野		
記録者氏名	高橋 順子	記録年月日	2007年 6月 1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念を掲げ、理念の周知徹底を会議のたびに行ないその人らしい生活を送られるようにする支援を心掛けている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	会社独自の運営理念の唱和を朝夕の申し送り時に唱和し、理念の実践を心掛けている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	御家族には、来訪時や家族会の中で、お伝えしている。又、運営推進委員会開催時に地域の方々に理解されるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や買い物の機会を出来るだけ多く持ち、その際挨拶や声掛けをするよう心掛けている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域でのゴミ拾いやリサイクル活動に積極的に参加し、地元の人々との交流に努めている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	認知症に対しての理解を深めて頂くためにも、積極的に外に出掛け、社会資源の活用を模索し、スタッフと話し合いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の内容を真摯に受け止め、指摘事項に対しては、改善するよう取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進委員会では、ホーム内で起こったことを全て報告させて頂いている。又、委員からの御意見・ご要望はサービス向上に向けて積極的に受け入れている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当部署とは、常に連絡を取り合い、運営に関しての意見やアドバイスを頂いている。今後も関係を保っていく。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	実際に、成年後見制度を利用されている入居者も居り、都度職員には、研修の機会を設けている。 又、御家族や御本人が必要とされる場合は、活用出来るよう支援している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内に身体拘束委員会を設け、定例会議で虐待防止について学習している。 又、職員同士が虐待を見過ごさずこのないよう指導・防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、時間を掛け、理解された上での契約となっている。 解約の際も、十分な説明をし、理解頂いての解約となっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事業所内に苦情処理箱を設置している。又、本社対策として、フリーダイヤルによる苦情も受け付け、不満・苦情があった場合には、それらの意見を運営に反映させるよう努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、ホーム便りを作成し、御家族に送付している。遠方の御家族には手紙で近況をお知らせしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事業所内に苦情処理箱を設置している。又、本社対策として、フリーダイヤルによる苦情も受け付け御意見は運営に反映するよう努めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議を設け、職員からの意見を聞く機会を作り、ホーム運営に反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の希望を入れた勤務調整をしつつも、状況の変化に対応出来る勤務の調整を行なっている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	事業所内の異動に関しては、異動後もユニット間の往来を自由とし、入居者のダメージを最小限にしている。又、離職者を出さないよう、職員の意見に耳を傾ける努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内での研修については、順次受講している。勤務年数によって各種の研修に参加し、スキルアップをはかっている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域での会合には、積極的に参加し、同業者とのネットワーク作りをし、サービスの質の向上を目指している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩場所を確保しており、勤務と休憩の区別を付け、ストレスの軽減に努めている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>勤務年数により、受講する研修を選択し、スキルアップをはかり、日々の業務に反映させている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居時のアセスメントに時間を掛け、御本人が何を必要としているのかを、良く聴く時間を設けている。その結果を受け止め、ケアする努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談を受けた時点で、時間を掛け良く話しをお聞きして何が必要かを見極め、受け止めるように努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に面談時間を多く持つよう心掛け、何か必要なのを見極め、他事業者にも、アドバイスを受け、対応に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居申し込み前に、内覧頂き、事業所内の雰囲気を体験して頂いた上での御入居という形を取らせて頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	スタッフ全員が常に、入居者の目線で穏かな言葉掛けを行ない料理面や野菜の花植え等を入居者に教えて頂き支え合う関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、ほほえみ便りを御家族へ送付し、ホーム内での出来事をお伝えしている。又、御家族来訪時にホームでの様子を伝え、御家族の意向を伺いながら、本人を支えていく関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居前のアセスメント時に御家族関係についてもお話しを伺い、御家族来訪時には、近況をお伝えし、遠方の御家族には、手紙にて近況をお知らせし、関係構築に努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	御入居の際に、家庭で使用していた物を持って来て頂いたり、友人・知人の面会も受け入れ、関係を保つ支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お茶の時間や、カラオケなどのレクの時間をつくり、1人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合うことができるように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も、訪問・電話など連携を保ち、関係を保つよう努力している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の生活歴を知り、一人ひとりのホームでの暮らし方や意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の生活歴や、今迄の暮らし方・生活環境・サービス利用についての経過をご家族に伺い、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	1日の過ごし方のパターンを把握する共に、1日3回バイタルチェックを行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンスを行ない、ケアプランを作成している。ご本人や御家族の意向を伺い、本人がホームで生活を過ごしやすいよう、出来ること・出来ないことを見極め、スタッフの意見も取り入れた介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて、見直しを行なっている。 見直し以前に対応出来ない変化が生じた場合は、カンファレンスを行ない、現状に即した新たな計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアの実践に関しては、個々の介護記録に記入している。 結果、気付きは定期的開催されるカンファレンスに発表を行ない、ケアプラン見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院や買い物など、状況に応じ、都度、柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署による防災訓練や行事の際のボランティアによる、演奏など、必要性に応じ、支援している。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	御本人が必要としていることに対し、他事業者と連携を取り、数々のサービスを利用出来る支援をしている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じ、地域包括支援センターとは、協働している。又、運営推進委員会には、必ず出席頂いている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	2週間毎に、提携病院の往診を受けている。又、緊急時にはすぐに連絡し、相談を行いながら、日常の健康管理に努めている。又、利用者の身体状況に応じながら、皮膚科・歯科・眼科の往診を行なっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携医と常に連携をとり、すぐに相談出来る体制を整えている。又、状態の変化時はすぐに診断・治療を受けられるよう支援している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所としては、看護職員の確保は無いが、提携医療機関の利用者をよく知る看護師と連絡を取り合い、相談をしている。又、土・日問わず、相談をすることが出来る。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	提携医療機関に連絡し、連携をとっている。早期退院に向け、常時連絡を密に取る体制が出来ている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時や、入院・退院時には、必ず御家族同席にてDrよりお話を伺い、御家族の意向も踏まえた終末期に向けた話し合いを行なっている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在、終末期に入居者は居られないが、常に提携医と連携を取り合い、ホーム内での出来ること・出来ないことを見極めている。今後も、重度・終末期になられた入居者様に対しても、提携医と連携をとり、チームとして支援していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居時のアセスメント時に、御家族や関係者と良く話し合い、情報交換を行なって、ケアプランに内容も伝え、ご本人のダメージを防ぐよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	1人ひとりの今迄の、誇りを大切に、御本人のプライドを傷つけることのないよう、言葉掛け対応に注意し、配慮している。 個人情報に関しては、鍵のかかるキャビネットに保管している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	1人ひとりの状況に合わせ、ご本人の思いが表せるように、声掛けを行なっている。 又、御本人の意志を尊重し、自分で決めて頂けるような、促しを行ない、暮らせるように支援している。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人ひとりのペースを大切に、1日1日の暮らし方について、御本人の希望に沿って生活して頂けるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	2ヶ月に1回、訪問美容師が来訪し、散髪・パーマを行ない、身だしなみに気を付けている。又、御本人希望時には、御本人の望む店へ行くことが出来るように努めている。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立をたて、毎日食事を提供している。又、食べたい物を伺い提供を行なっている。利用者とスタッフが、その人に合わせ準備・盛り付けなどを行ない後片付けを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	毎朝、食後にコーヒーを提供している。又、御本人が好む飲み物を状況に合わせて、提供し、楽しめるよう支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	1人ひとりの排泄のパターンを掴み、定時排泄を行なっている。又、パット汚染時には、交換を行ない、清潔を保持している。排便についても、排便困難にならないよう、1日1500cc以上の水分摂取を心掛けている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	1人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を実施している。又、1人ひとりに合わせて介助を行なっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その時々状況に応じ、休息をしている。又、夜間安心して眠れるように声掛けを行ない支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	行事を行ない、喜びや楽しむことができるよう、スタッフ・利用者と相談しながら、開催している。又、御本人の趣味を活かし、役割を持つことで、張り合いを持って生活して頂くよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	会社の方針により、御本人の現金所持はご遠慮頂いている。必要に応じ、一緒に買い物に出掛けるが、現金管理は、スタッフが行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、散歩をして気晴らしをしたり、ベランダでの日光浴を行ない、気分転換を行なっている。又、スタッフと買い物へ行き、気分転換を行なっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	御家族との外出は、自由に出掛けて頂いている。又、バスレク・フルーツ狩りなどの外出には、スタッフ同行にて行なっている。		年間行事予定を作成し、バスレク・フルーツ狩りも検討している。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人希望時に、御家族への電話が出来るよう支援している。又、御本人宛ての手紙を渡している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	明るく・気軽に立ち寄って頂けるような、雰囲気作りに努め、居心地の良い場を提供出来るように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設け、ホーム会議やカンファレンス時に拘束に対する学習を行なっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や、日中玄関に鍵を掛けずに常に、1人ひとりの状況や見守りを行ない、ケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者のプライバシーに配慮し、常に所在や様子を把握し、ケアに努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	1人ひとりの状態に応じて、物品についての保管・管理を行ない、危険を防ぐ取り組みを行なっている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット勉強を行ない、知識を学ぶと共に、1人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命講習を受講し、応急処置が出来るように行なっている。又、スタッフルーム内に急変時や事故発生時に備えて、連絡手順を提示していると共に、スタッフがすぐに駆けつけられるよう連絡網を作成している。		救急救命講習に関しては、全員が順次受講出来るよう、取組んでいきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災訓練を行ない、利用者が安心して避難出来るように行なっている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	1人ひとりに起こり得るリスクについては、御家族などに説明していないが、1人ひとりが抑圧感のない暮らしをして頂くように配慮し、話し合いを行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>1日3回のバイタルチェックを行なっている。又、体調の変化・異変発見に努め、異変時には、速やかに情報共有し、提携病院などへ連絡し、対応に結び付けている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>1人ひとりの服薬時に、服薬の確認を行なっている。又、用法・用量については、薬局より出されている処方箋により確認している。服薬については、必ず飲み込んだのを確認し、症状の変化の確認に努めている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>食物繊維の多い、食事提供に努め、水分摂取も1日1500ccを目安にしている。散歩やラジオ体操など身体を動かすよう取り組んでいる。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行ない、清潔保持に努めている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>1人ひとりの食事量や栄養バランスを考えて食事を提供している。糖尿病の方へは、Dr指示にて主食のグラム制限を行なっている。又、水分量は1日1500cc以上摂って頂くよう支援している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>会社独自のマニュアルがあり、その内容に沿った、感染予防に努めている。又、手洗い・うがいの実施をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所・調理用具などは、調理毎にアルコール消毒を行ない、食中毒を起さないよう努めている。又、毎日買い物へ行き、新鮮で安全な食材を提供している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周囲は、花を植えたり、明るい雰囲気作りを行ない、親しみやすく、安心して出入りが出来るようにしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節感を取り入れた、飾り付けなどを行ない、四季を感じる事が、出来るようにしている。又、利用者にとって不快感や音・光がなく、居心地の良い生活が送れるように配慮している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>入居者が自由に寛げるよう、ソファー・椅子を用意している。又、和室もあり居室内も含め、好きな時に、好きな場所で過ごせるようにしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は、御本人や御家族と相談しながら、昔からの馴染みのある物や使い慣れたものを使用し、居心地良く過ごすことが出来るよう工夫している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>常に、換気を行ない、空気が滞らないよう注意している。リビング・居室の温度を一定に保ち、温度調整はまめにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		



. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族            家族の2/3くらい            家族の1/3くらい            ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように            数日に1回程度            たまに            ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

お客様とのコミュニケーションを大切にし、散歩や買い物等外出の機会をなるべく沢山持つようにしている。近隣の保育園や小学校との交流を持ち、地域と密着したホームを目指している。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ) ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	(株)コムスン ほほえみ千歳	評価実施年月日	2007年 6月 1日
評価実施構成員氏名	榎山・小口・対馬・桑島・桂木		
記録者氏名	二子石 幸恵	記録年月日	2007年 6月 1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念を掲げ、理念の周知徹底を行ない、その人らしい生活が送れるよう支援している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念を朝夕の申し送り時に、唱和し、常に介護で大切な事や根本的な考え方が常に話題に上がっており、理念の現実に向け取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	御家族には、来訪時や家族会など、折に触れ繰り返して伝えている。 又、ホーム便りを活用している。 地域には、営業活動の際に、ホームの説明及びホーム便りを配布している	町内会の会合、地域の集まりやイベントの参加のほか、折に触れて事業所の実践内容をわかりやすく伝えるよう工夫する。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に散歩や買い物に出掛け、隣近所の人達と挨拶を交わしたり、話しをしたりしている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域活動、リサイクル活動や行事などの情報を集め、それらに積極的に参加するなど、接点を持つ努力をしている。 事業所に近隣の小学生が訪問してくれて交流会を行なっている。	近隣の保育園との交流の機会を持っている。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	管理者は、事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修・会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。	自治会への積極的な活動を広めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。又、評価結果を踏まえ、改善に向けて具体案の検討や実践に向けて、努力をしている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>前回の運営推進会議で取り上げられた、検討事項について経過を報告し合い、サービス向上に繋がるよう、取り組んでいる。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市内の連絡会には、極力参加・出席出来るよう努め、市町村担当者とは常に連絡を取り、情報交換し、サービスの向上に取り組んでいる。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>ホーム内会議・カンファレンス等で、学習を行ない、必要になった場合、活用出来るよう支援を行なっている。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解と遵守虐待行為を発見した場合の対応方法について、周知徹底がされている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は、重要事項説明の時間を取って、丁寧に説明している。特に、利用料金や起こり得るリスク、医療連携体制などについては詳しく説明し、同意を得るようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者の立場に立った運営を心掛けている。 意見や苦情について、ホーム内で話し合いを行ない、速やかに対応を行なっている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月ホーム便りを作成し、お客様の様子や行事、職員の紹介をしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームには、苦情処理ボックスを設置している。 運営推進委員会や御家族でも、ご意見を頂いたりしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のホーム会議時や、その都度意見や提案を受け、ホーム運営に反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	人員基準に沿った、人員を確保しており、必要に応じて人員配置を厚くしており、スタッフの希望も取り入れたシフト作りに努めている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット異動後も、馴染みの関係が保てるようそれぞれのユニット訪問を心掛けている。 離職者を出さないよう、スタッフとのコミュニケーションを保つよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>経験年数により、法人内の研修に参加させている。又、各種の法人外の研修にも、参加させ、ケアの向上に努めている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市内の福祉施設の連絡会や勉強会に参加し、又、直接伺い交流を持つよう取り組み、サービスの向上に努めている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員が休憩を取れるように、スペースを用意し、勤務と休憩の区切りをつけている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>勤務年数によって各種の研修を受講してスキルアップをはかり、意欲の向上に繋げている。又、各種の研修会に参加し意欲向上に繋げている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居時のアセスメント時、時間を掛けて、御本人より聞き取りを行ない、不安や要求を受け止めている。</p>	<p>アセスメント時、センター方式によるアセスメントが不十分。今後しっかりと取組んでいきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居希望時の内覧時、御家族より詳しくお話を伺い、不安や要求を解消する努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居希望の際、市内の他事業所や、行政で配布されている案内書のご説明をし、御家族が必要としているサービスの説明を行なっている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	内覧の際、御本人にも一緒にホーム内を御覧になられたり、御入居時もなるべく、今迄使用されていた物をお持ち頂くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	常にコミュニケーションを取りながら、御本人のお話を傾聴し、又、出来る方には一緒に料理を作って頂くなど、関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ケアプラン交付の際や、来訪時又、遠方の御家族には手紙などで近況を報告し、都度御意見をお聞きし、関係構築に努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居時のアセスメントで御家族情報を頂き、理解したうえでよりよい、関係が築けるよう、近況などを御報告し、関係構築に努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族や御本人了承のもと、友人や知人の来訪、又、外出を積極的に受け入れている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の助け合いや、気持ちの支え合いが出来るような支援を行なっている。仲の良い入居者同士が過ごせる配慮・孤立しがちな入居者が交流出来る機会を作る等、一緒に生活する仲間となっていけるよう支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスの利用が終了された方も、遊びに来てもらうなど継続的な付き合いが出来るように心掛けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に、入居者様の立場に立ったケアを心掛け、コミュニケーションを取りながら、お客様の希望を把握するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者のアセスメントの際、御本人の生活歴をお聞きし、入居後もコミュニケーションの中から、把握するよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々のケアを通じ、スタッフ各人が知り得た情報を全員が情報共有するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者の今の状況や希望をよく知る職員の情報に基づいて、入居者主体の目標を立てて、1人ひとりの特徴を捉えた具体的な介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画に実施期間を明記し、その期間が終了する際に、見直しを行なうことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行ない、実施後は必ず、評価するようにしている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意し、日常の暮らしの様子や身体状況も記録されている。介護計画に沿って、介護が実践されているかを、日常的に記録をし、見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・ご家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な、支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事の際は、ボランティアの方々による訪問を受けている。避難訓練や近隣保育園や小学校との交流もある。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のケアマネ研修会に参加し、他事業より情報収集し、必要と思われる時は他のサービス利用について、助言や支援を行なっている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	定期的に地域包括支援センターを訪問し、都度アドバイスを求めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	心身の変化や、異常発生時に気軽に、相談出来る医療関係者を確保しており、緊急時には、対応してもらえる協力医療機関もある。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に関する、診断や治療、対処方法などについて職員が相談でき、指示や助言をもらえる医師を確保している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携病院の看護師と連携が取れており、入居者様の健康管理・医療活用については、しっかりと協力を頂いている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合、早期退院に向けて、家族の希望を聞きながら、病院と連携し、リハビリなどの話し合いを行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	体調変化時や、入・退院時には、必ず御家族を交え、Drによる説明を受け、その後の御家族の意向をお聞きし、その結果をスタッフ全員に周知している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今後、年齢を重ねるにしたがって、重度化する可能性は大いにあるが、提携医より指導を仰ぎ、チームとして今後の変化に対し準備を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>事前に御家族など本人に係るアセスメント、支援の内容、支援状況など十分な情報交換を行ない、きめ細かい連携を心掛けている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉掛けや対応に対しては申し送り時・ホーム会議時に指導している。 個人情報に関しては、鍵のかかるキャビネットに入れ、漏洩のないように取り扱っている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>外出・買い物など、入居者の希望や意見を中心にして予定を組み立てている。 又、買い物では御本人が買いたい物を選べるよう支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>買い物や散歩など、1人ひとりの状態や体調、その日その時の思いに配慮し、柔軟に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>髪などは、声掛けをして、ご自分で整えて頂いている。又、出来ない方には支援している。 衣服の汚れは、さりげなく声を掛けて、自室または、脱衣場で着替えて頂いている。 理・美容は2ヶ月に1回来設する美容師にカット・パーマ・髪染めなど好みに合わせて頂いている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員と一緒に準備、片付けをしている。 食事中は職員を交え、音楽と会話を楽しみながら、さりげない介助に努めている。</p>		<p>入居者同士の交流を図るため、各ユニット合同でのバイキング方式の食事会・季節の行事食などで食事を楽しむことが出来る支援を行なっている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者の希望により配慮している。喫煙をなされる入居者の方はいない。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排尿・排便チェック表で、排泄のパターンを把握して、トイレへのさりげない声掛け誘導を行ない、一人ひとりにあった排泄の自立に向けた支援を行なっている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者、1人ひとりの希望に合わせ、寛いだ入浴が出来るよう支援している。入浴を拒む人に対して、言葉掛けや対応の工夫、チームプレイなどによって、入浴支援を試みている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	散歩に出掛けたり、日中の活動を通して、個々に合わせた生活のリズム作りを意識的に行なっている。 日中、ひと休み出来るよう、リビングにソファを置いている。又、入浴後・外出の後には、十分に休息を取って頂くようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ホーム内で入居者1人ひとりが日常の中に、役割・出番を作り出す取り組み(食器拭き・調理の下ごしらえ・掃除・洗濯物たたみ)をし、支援を行なっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	会社の方針により、現金を持って頂くことは、ご遠慮頂いている。 ご本人が必要とされている物は、一緒に買い物に出掛けるが、金銭管理はスタッフが行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物・散歩・楽しみごとのための外出や近所に遊びに行くなど、積極的に外出の機会を作っている。		近所の保育園の庭の開放日に合わせて、交流を兼ねて、遊びに行く機会を作っている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	実現が難しくても、御本人・御家族の希望を聞き、会話に取り入れれたり、関連する写真を見るなど、本人の行きたい気持ちに応えるよう支援している。		暮らしの中の楽しみごととして、入居者と相談をしながら蓐狩りを計画中。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居者の方の希望があれば、手紙・電話が出来るよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ホームは、御家族がいつでも訪ねられるよう、御家族の出入りは自由となっている。訪問されると、職員は笑顔で迎え、居心地良く過ごせる雰囲気作りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設け、具体的な禁止事項を職員全体で認識し、身体拘束による、精神的・身体的リスクを正しく理解し、拘束のないケアを目指し、介護を行なっている。		安全確保など、緊急かつ、止むを得ない事情で何らかの拘束を行なわなければならない場合は、その理由・方法・期間などを明記した記録、御家族への説明・同意書などがある。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者の自由な暮らしを支え、心理的圧迫を齎せないように、日中は玄関に、鍵を掛けないよう配慮をしている。		入居者が外に出て行きそうな雰囲気を察知したら、さりげなく声を掛けたり、一緒について行くなど、安全に配慮し、自由な暮らしを支援するようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に、入居者を見守りやすい場所において、入居者1人ひとりの位置と様子を把握している。 職員同士、声を掛け合い連携を取り、入居者全員の様子をさりげなく常に、見守るようにしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	1人ひとりの状況に照らしながら、厳重に保管すべき物・保管管理が必要な物・利用者が、使う時に注意が必要な物などに分けて管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	現在の利用者の状況に応じ、予測される危険を検討し、職員の共有認識を図っている。 万が一事故が発生した時は、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防策について検討し、事故防止に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	怪我・骨折・喉つまり・意識不明などの急変や事故発生時に備え、学習や訓練を行っている。又、緊急時対応マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		講習会に参加したり、研修を実施するなどして、いざという時に、職員が慌てないように定期的に訓練を行なっている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を定期的に行なっている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクに関しては、入居時や体調変化時に都度、御家族に報告・説明をし、入居者に合わせた対応を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	1日3回バイタルチェック(体温・血圧・脈)を実施し、常に顔色や様子に注意し、日常の暮らしの中で、体調の変化や異変を見落とさないよう、全職員に徹底し、症状が見られた時は、医療機関などに報告・相談を行ない、対応している。		職員が入居者各々の普段の様子をよく知り、常に変化や異変の発見に努め、変化に対応した継続的なケアを行なっていけるよう、記録に残して、情報を共有している。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は1人ひとりの薬の目的を周知しており、正しく服薬出来るよう職員同士、連携を取り、慎重に服薬支援を行なっている。薬が変わった時は、特に、情報の共有・副作用などの把握など慎重に行なっている。		入居者各々の処方箋が添付されたファイルがあり、全職員が薬の内容を把握出来るようにしている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	散歩やラジオ体操・廊下歩行などの適度な運動・水分摂取・食材の工夫などにより、自然排便を促す支援を行なっている。		1人ひとりの1日の暮らし全体の中で、食事・排泄・運動量を把握し、自然な排便を促す工夫を個別に行なっている。尚、下剤などは、個々の状態に合わせた使用量・頻度とし、薬にむやみに頼らないように工夫もしている。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔内の清潔・手入れの必要性を職員が理解し、毎食後・口腔ケアの促しを行なっている。困難な方は、職員が毎食後支援を行なっている。		1人ひとりの習慣や、出来る事・出来なくなったことを個別に把握して、状況にあわせて、義歯の管理・手入れを職員が毎日確実にしている。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養のバランスを考えた、献立を作り、その日の1人ひとりの残食量をチェックして、日誌に付け、大まかな摂取量を把握している。水分量も、チェック表に記入し、職員全員で把握出来るようにしており、個々に合わせて確保出来るよう支援を行なっている。		入居者1人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量を1日を通しておおよそ把握出来ている。水分は、様々な飲み物を常備しており、誤嚥防止のための工夫として、ゼリー状にしたりなどの、工夫も行なっている。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する取り決めがあり、インフルエンザなどの予防注射を受けている。外出後・食事前には、うがい・手洗いを行なうよう支援している。又、『感染症対策マニュアル』や感染症に関する情報を集めたファイルをキッチン・洗面所に設置し、予防のための、勉強会を全員参加のホーム会議内で内部研修を行なっている。		季節・地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食中毒防止のため、キッチン衛生管理チェックシートなどで、毎日点検チェックを行ない、管理に努めている。</p> <p>食材は、毎日新鮮な物を購入し、使用している。</p>		<p>定期的に冷蔵庫・食品庫・キッチン周りの清掃・整理整頓を行ない、食材の管理・衛生管理に努めている。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>建物の前面には、親しみやすい大きな看板を提示し、玄関横と裏側には菜園を作成し、玄関先には、プランターを置いて、季節感を演出し、明るい環境作りに配慮している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家庭的な雰囲気を考慮し、壁に入居者の作品や写真を提示したり、ホーム内装飾にて、季節感を演出し、明るい環境作りを工夫している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>廊下・リビングの一角にはソファが配置され、またリビングに隣接して和室があり、入居者同志寛ぎの場として利用されている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際、ご家族に協力を頂き、慣れ親しんだ物を持ってきて頂けるよう説明している。</p> <p>写真や使い慣れた日用品が持ち込まれて居心地の良さに配慮している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>リビングフローアは、食事の後や一定の時間帯に換気をしている。</p> <p>トイレは、換気扇と消臭剤で悪臭が出ないように工夫している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族            家族の2/3くらい            家族の1/3くらい            ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように            数日に1回程度            たまに            ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 運営推進委員会や町内会で、認知症への啓発活動を行なっていきたい。常にお客様の立場に立ったケアを目指し、学習会や講習会への参加を積極的におこなっている。